

**PHOTOCURABLE OLIGOMER, RESIN COMPOSITION CONTAINING SAME, AND ITS CURED ARTICLE****Publication number:** JP5112737**Publication date:** 1993-05-07**Inventor:** YOKOSHIMA MINORU**Applicant:** NIPPON KAYAKU KK**Classification:****- international:** C09D4/06; C09D4/02; C09D11/10; C09D4/06;  
C09D4/02; C09D11/10; (IPC1-7): C09D4/06; C09D11/10**- european:****Application number:** JP19910299611 19911021**Priority number(s):** JP19910299611 19911021**Report a data error here****Abstract of JP5112737**

**PURPOSE:** To obtain a photocurable oligomer which gives a printing ink excellent in gloss, pigment dispersion, printability, etc., by reacting a specific compd. with rosin. **CONSTITUTION:** A photocurable oligomer is prepd. by reacting a compd. of formula I (wherein R is H or CH<sub>3</sub>) (e.g. a compd. of formula II or III) with rosin. The type of rosin used is determined considering the rate of ultraviolet curing of the resulting ink, the hue of the oligomer, etc., and usually rosins with conjugated double bonds stabilized, such as a hydrogenated rosin or a disproportionated rosin, are suitable. The oligomer can be used for various applications by utilizing its photocurability and gives, when used as a binder, a printing ink excellent in gloss, pigment dispersion, printability, etc., in comparison with conventional solvent-based printing inks.

---

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

THIS PAGE BLANK (USPTO)

【物件名】

刊行物 5

【添付書類】



刊行物 5

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-112737

(43)公開日 平成5年(1993)5月7日

(51)Int.Cl.	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C09D 4/06	PDR	7921-4J		
11/10	PTV	7415-4J		
	PTY	7415-4J		

審査請求 未請求 請求項の数3(全 8 頁)

(21)出願番号 特願平3-299611

(71)出願人 000004086

日本化薬株式会社

東京都千代田区富士見1丁目11番2号

(22)出願日 平成3年(1991)10月21日

(72)発明者 横島 実

茨城県取手市井野2291

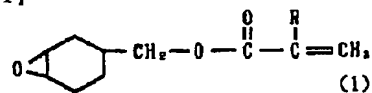
(54)【発明の名称】 光硬化性オリゴマー、これを用いた樹脂組成物及びその硬化物

(57)【要約】

【目的】新規な光硬化性オリゴマーを用いることにより  
 光沢、顔料分散性、印刷適性に優れた樹脂組成物を提供  
 すること。

【構成】下記式(1)で表される化合物とロジンとの反  
 応物である光硬化性オリゴマー及びこれを含有する樹脂  
 組成物並びにその硬化物。

【化1】

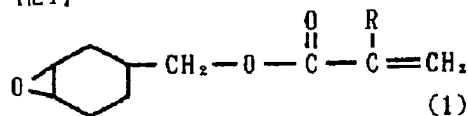
(式中、RはH又はCH<sub>3</sub>である。)

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】式(1)で表される化合物

【化1】



(式中、RはH又はCH<sub>3</sub>である。)とロジンとの反応物である光硬化性オリゴマー。

【請求項2】請求項1記載の光硬化性オリゴマーを含有することを特徴とする樹脂組成物。

【請求項3】請求項2記載の樹脂組成物の硬化物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、新規な光硬化性オリゴマー、これを用いた樹脂組成物及びその硬化物に関する。さらに詳しくは、紫外線硬化性を有するオリゴマーであって、とくに印刷インキ用バインダーに適する光硬化性オリゴマー、これを用いた樹脂組成物及び硬化物に

【0002】

【従来の技術】紫外線硬化型インキは、通常はエポキシ樹脂とアクリル酸とを反応してえられる不飽和エポキシ樹脂エステルなどにトリメチロールプロパントリアクリレートなどの反応性希釈剤、光重合開始剤、および顔料などを適宜配合して得られる組成物として知られている。この中、不飽和エポキシ樹脂エステル、不飽和ポリエステル等はインキ用バインダー中のオリゴマーとして位置づけられているが、該オリゴマーは光沢、顔料分散性、粘度、印刷適性、硬化速度などのえられるインキ諸特性に密接に関連するため前記構成成分のなかでもとくに重要である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】近年、紫外線硬化型インキであっても従来の溶剤型インキと同程度の印刷適性を有することが要求され、従来の多官能性オリゴマーである不飽和エポキシ樹脂などでは該要求を充分満足しえ\*

(2)

特開平5-112737

2

\* ない状況にある。

【0004】例えば、不飽和エポキシ樹脂として、ビスフェノールAのエポキシ樹脂と(メタ)アクリル酸との反応物が知られているが、これを用いて紫外線硬化型インキを調製したばあいには印刷適性のうち、殊にインキの乳化やミスチング現象が顕著に認められるという欠点がある。そのため、優れた印刷適性を有する紫外線硬化性インキを提供しうる新規なオリゴマーの開発が要望されている。

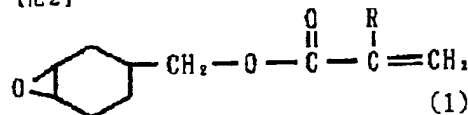
10 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は従来技術では解決しえなかつた前記課題を解決するためになされたものである。本発明者らは、印刷適性のほか、硬化速度、機上安定性などを考慮して、これら諸性能を満足することができると優れた光硬化性オリゴマーを開発すべく鋭意研究を重ねた結果、ロジン成分を側鎖に有する特定のオリゴマーを用いることにより、前記課題を解決しうることを見出した。即ち、本発明は、

1. 式(1)で表される化合物

20 【0006】

【化2】



【0007】(式中R、H又はCH<sub>3</sub>である。)とロジンとの反応物である光硬化性オリゴマー、

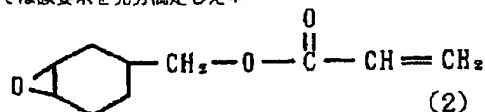
2. 第1項記載の光硬化性オリゴマーを含有することを特徴とする樹脂組成物、

3. 第2項記載の樹脂組成物の硬化物、に関する。

【0008】本発明の新規な光硬化性オリゴマーは、前記式(1)で表される化合物とロジンとを反応させることにより得ることができる。式(1)で表される化合物の具体例としては、

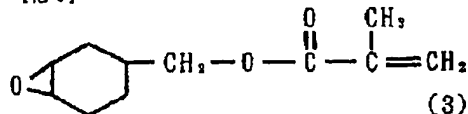
【0009】

【化3】



【0010】

【化4】



【0011】を挙げることができる。ロジン類は、得られるインキの紫外線硬化速度、光硬化性オリゴマーの色調などを考慮して決定され、通常は水素化ロジン、不均化ロジンなどの共役二重結合を安定化処理したロジンが適当である。例えば、荒川化学工業(株)製、商品名、ハイパール(水添ロジン)、KR-610(無色ロジン)等を挙げることができる。

50

3

【0012】式(1)で表される化合物とロジンとの反応は、ロジン類のカルボキシル基の1当量に対して式(1)で表される化合物を好ましくは約0.9~1.5当量、特に好ましくは約0.95~1.1当量となる比で行う。反応を促進させるために触媒(例えば、トリエチルアミン、ベンジルジメチルアミン、メチルトリエチルアンモニウムクロライド、トリフェニルフォスフィン等)を使用することが好ましく、該触媒の使用量は、反応原料混合物に対して好ましくは0.1~10重量%、特に好ましくは0.3~5重量%である。反応中の重合を防止するために、重合防止剤(例えば、メトキノン、ハイドロキノン、フェノチアジン等)を使用するのが好ましく、その使用量は、反応原料混合物に対して好ましくは0.01~1重量%、特に好ましくは0.05~0.5重量%である。反応温度は好ましくは60~150℃、特に好ましくは80~120℃である。又、反応時間は好ましくは5~60時間、特に好ましくは10~50時間である。

【0013】本発明の樹脂組成物は光硬化性オリゴマーが高粘度な為に必要なに応じて粘度降下を目的として反応性希釈剤を本発明の光硬化性オリゴマー100重量部に対して通常20~700重量部の範囲で使用する。該反応性希釈剤としては、2-ヒドロキシエチル(メタ)アクリレート、トリプロピレングリコールジ(メタ)アクリレート、ヒドロキシビバリン酸ネオペンチルグリコールジ(メタ)アクリレート、ビスフェノールAテトラエトキシジ(メタ)アクリレート、ビスフェノールFテトラエトキシジ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパントリ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパントリプロキシトリ(メタ)アクリレート、ジトリメチロールプロパントテトラ(メタ)アクリレート、トリシクロデカンジメチロールジ(メタ)アクリレート、ジペンタエリスリトールヘキサ及びペンタ(メタ)アクリレート等を挙げることができる。これら反応性希釈剤を1種もしくは2種以上用いることができる。

【0014】本発明の樹脂組成物を印刷、インキ用バインダーとして使用する場合には、更に必要に応じて、ファストエロー、ベンジジエロー、レーキレッド4R、レーキレッドC、ブリリアントカーミン6B、フタロシアンブルー、チタン白、カーボンブラック等の顔料を、本発明の樹脂組成物中、通常50重量%以下で分散\*

No.	PPM
1	166.220
2	166.160
3	146.713
4	145.733
5	130.712
6	128.419
7	128.310
8	127.001

(3)

特開平5-112737

4

\*して使用することができる。さらに、アルミナ、ケイ素等の体質顔料を分散して使用してもよい。また、紫外線の様な比較的低エネルギーの活性エネルギー線を硬化エネルギー線として利用する際には、ベンゾフェノン、チオキサントン、ベンゾインエチルエーテル、2-メチル-1-[4-(メチルチオ)フェニル]-2-モルフォリノープロパン-1-オン、ジエトキシセトフェノン、2-ヒドロキシ-2-メチル-1-フェニルプロパン-1-オン等の光重合開始剤を樹脂組成物中通常0.5~20重量%、さらに必要に応じて脂肪族あるいは芳香族アミンあるいは4,4'-ビスジエチルアミノベンゾフェノン等を樹脂組成物中0.1~10重量%、促進剤として使用することが好ましい。

【0015】さらに、本発明の樹脂組成物として、本発明の光硬化性オリゴマーの他に、従来より知られているエポキシ(メタ)アクリレート、ウレタン(メタ)アクリレート等を一部併用することもできる。本発明の樹脂組成物はさらに前記反応希釈剤等をさらに加えて低粘度化すること等によって塗料、接着剤、ソルダーレジスト、オーバープリントワニス等として使用することができる。さらに成形物用材料として使用することもできる。本発明の樹脂組成物は各成分を均一に混合することにより得ることができる。本発明の樹脂組成物の硬化物は常法により紫外線又は電子線を照射して硬化させることにより得ることができる。

【0016】

【実施例】以下実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。実施例中、部は重量部を示す。

実施例1

無色ロジン(荒川化学工業(株)製、KR-610、不均化ロジン、酸価(mgKOH/g)170)200部、前記式(2)の化合物115部、メチルトリエチルアンモニウムクロライド1.14部及びメトキノン0.3部を仕込み、95℃に昇温し、95℃で反応を行う。反応混合液の酸価(mgKOH/g)が5以下になるまで反応を行い(約25時間)本発明の光硬化性オリゴマー(生成物A)を得た。得られた生成物Aは、常温で固体で淡黄色透明であった。得られた生成物の高分解能核磁気共鳴(NMR)により測定を行った結果を下記に示す。

【0017】

No.	PPM
9	124.251
10	124.032
11	77.484
12	77.061
13	76.636
14	72.913
15	72.832
16	71.989

(4)

特開平 5-112737

5		6	
No.	PPM	No.	PPM
17	71.707	45	36.872
18	71.662	46	36.741
19	68.352	47	36.695
20	68.181	48	36.555
21	68.040	49	36.346
22	67.493	50	36.243
23	67.274	51	35.390
24	67.225	52	34.434
25	67.138	53	33.454
26	67.070	54	33.338
27	67.028	55	33.092
28	56.260	56	32.808
29	49.989	57	32.611
30	47.785	58	32.125
31	47.713	59	32.021
32	46.521	60	31.839
33	45.114	61	31.790
34	44.224	62	31.738
35	43.661	63	30.800
36	40.462	64	30.724
37	40.379	65	30.355
38	38.423	66	29.832
39	38.226	67	28.785
40	38.137	68	28.709
41	37.970	69	28.635
42	37.167	70	27.834
43	37.053	71	27.131
44	37.014	72	26.087

No.	7 PPM	(5)	特開平5-112737 8
73	25.396		* ラメチルシランを用いて溶媒は重クロロホルムを用いて プロトンデカップリング法で行った。
74	24.812		【0019】実施例2
75	24.625		無色ロジン（荒川化学工業（株）製、KR-610、不 均化ロジン、酸価（mgKOH/g）170）200部、前記式 （3）の化合物124部、トリフェニルホスフィン1. 16部及びメトキノソ0.32部を仕込み、95℃で反 応を行い（約25時間）本発明の光硬化性オリゴマー （生成物B）を得た。生成物Bは常温で固体で、淡黄色
76	24.426		10 透明であった。
77	23.968		N. M. R. の測定結果
78	23.902		【0020】
79	22.748		
80	21.823		
81	21.708		
82	21.622		
83	21.369		
84	21.302		
85	19.826		
86	19.774		
87	19.594		
88	19.312		
89	19.046		
90	18.627		
91	18.192		
92	18.090	20	
93	16.828		
94	16.587		
95	14.635		
96	14.522		
97	0		

【0018】なお、上記の測定は、基準物質としてテト\*

No.	PPM	No.	PPM
1	178.358	20	77.054
2	178.000	21	76.631
3	167.483	22	72.950
4	167.418	23	72.874
5	167.369	24	72.498
6	146.706	25	71.996
7	145.747	26	71.901
8	137.499	27	71.733
9	136.358	28	68.428
10	136.324	29	68.215
11	136.268	30	67.596
12	134.508	31	67.526
13	127.018	32	67.342
14	125.944	33	67.278
15	125.613	34	67.210
16	125.473	35	67.136
17	124.269	36	56.843
18	124.032	37	56.300
19	77.477	38	56.230
No.	PPM	No.	PPM
39	50.105	66	36.248
40	50.023	67	35.592

(6)				特開平 5 - 1 1 2 7 3 7			
9				10			
41	48.062	68		35.390			
42	47.789	69		34.437			
43	47.713	70		33.458			
44	46.559	71		33.343			
45	46.510	72		33.098			
46	45.172	73		32.813			
47	45.074	74		32.621			
48	44.226	75		32.270			
49	43.673	76		32.188			
50	43.646	77		32.112			
51	40.462	78		32.036			
52	40.374	79		31.866			
53	38.546	80		31.793			
54	38.408	81		30.844			
55	38.211	82		30.790			
56	38.152	83		30.382			
57	37.973	84		29.834			
58	37.150	85		28.821			
59	37.059	86		28.728			
60	37.014	87		28.470			
61	36.940	88		27.999			
62	36.732	89		27.883			
63	36.653	90		27.188			
64	36.558	91		26.092			
65	36.349	92		25.401			



No.	11 PPM
93	24. 816
94	24. 715
95	24. 634
96	24. 636
97	23. 963
98	22. 776
99	21. 819
100	21. 725
101	21. 626
102	21. 373
103	21. 303
104	19. 830
105	19. 597
106	19. 317
107	19. 047
108	18. 632
109	18. 342
110	18. 253
111	18. 199
112	18. 101
113	17. 832
114	16. 845
115	16. 617
116	14. 645
117	14. 527
118	0. 337
119	0. 002

## 【0021】応用実施例1～5、比較例1

表1に示す様な組成比(数値は重量部を示す。)にて30本ロールミルを用いて混練し、調整し印刷インキ用樹脂組成物を得た。そして該組成物のインキ性能評価を行った。

## 【0022】インキ性能評価方法

硬化性(硬化時間): インキ0.6gをR1テスター(株)明製作所製を用いてカルトン紙に展色し、直\*

(7) 特開平5-112737  
12

\* ちに80W/cm、高圧水銀ランプで10cmの距離から紫外線を照射した後、R1テスターにより両面特アート紙を圧着し、インキが付着しなくなるまで要した照射時間(秒)を硬化時間として求める。

原インキおよび乳化インキの光沢: 上記でえられた硬化後の印刷物の光沢(原インキ光沢)を肉眼観察して評価する。

【0023】またインキ0.6gと湿し水とをR1テスターで乳化させ水切りした後、カルトン紙に展色し、原インキ光沢の測定時と同一条件で硬化し、硬化後の印刷面の光沢を乳化インキの光沢とし、同様に肉眼で観察し下記の基準により評価する。

◎: 非常に良好(印刷面が平滑であり、非常に艶がある。)

○: 良好(印刷面に艶がある)

△: ○と×の中間

×: 不良(印刷面に艶がなく、光を当てても反射しない)

## 【0024】

20 ミスチング: インコメーターのロールの前に紙を置きインキが付着したロールを1200回転させてインキをミスチングさせ、紙面に飛散したインキの状態を肉眼で観察し下記の基準で評価する。

○: 少ない(使用適当)

×: 多い(使用不適当)

洗浄性: インキの付着したインコメーターのロールの灯油による洗浄性を評価する。

ブロンジング: R1テスターを用いてカルトン紙に展色し、1時間室温で放置した後、硬化性試験と同様な条件で紫外線を0.5秒照射して硬化させ、肉眼で観察して下記の基準により評価する。

○: 展色直後硬化した試料と比較し、同等の色調

×: 顔料とビヒクルの分離がみられ、反射光が金色を呈する。

## 【0025】

表1

		実施例					比較例	
		1	2	3	4	5	1	2
生成物A		40	30	50	36	45		
生成物B			5		5	5		
KAYARAD R-114	* 1						40	36
" FM-300	* 2	29			29		29	
T-1420	* 3		34					33
TMPTA	* 4			19		19		
イルガキュア-907	* 5	6	6	6	6	6	6	6
KAYACURE DETX	* 6	1	1	1	1	1	1	1
カーミン6B	* 7	24	24	24	24	24	24	24
硬化時間(秒)		0.4	0.3	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3
原インキ光沢		◎	◎	◎	◎	◎	○	○

		(8)					特開平5-112737	
13							14	
乳化インキ光沢		◎	◎	◎	◎	◎	△	△
ミスチング		○	○	○	○	○	×	×
洗浄性		良好	良好	良好	良好	良好	不良	不良
ブロンジック		○	○	○	○	○	×	×

【0026】注 \*1 KAYARAD R-114 : 油化シエル  
エポキシ (株) 製  
エビコート828 のアクリル酸エステル化物。  
\*2 KAYARAD FM-300 : ビスフェノールAのテトラエ  
トキシジアクリレート、日本化薬 (株) 製  
\*3 KAYARAD T-1420 : ジトリメチロールプロパンテ 10  
トラアクリレート  
日本化薬 (株) 製  
\*4 KAYARAD TMPTA : トリメチロールプロパントリ  
アクリレート、日本化薬 (株) 製  
\*5 イルガキュア-907 : チバ・ガイギー社製、光  
重合開始剤。  
\*6 KAYACURE DETX : 日本化薬 (株) 製、光重合開  
始剤。  
\*7 カーミン6B : アゾ系紅顔料。  
【0027】表から明らかなように、本発明の樹脂組成  
物は光沢、印刷適性 (ミスチング、洗浄性、ブロンジン  
グ等) に優れている。  
【0028】  
【発明の効果】本発明の光硬化性オリゴマーは、その光  
硬化性を利用することにより広範囲な用途に適用するこ  
とができ、特に印刷インキ用バインダーとして使用した  
場合には、得られた印刷インキの光沢、顔料分散性、印  
刷適性などの点で従来の溶剤型印刷インキと比較して優  
れた利点を有する。